

令和 6 年度 第 1 期 論文式刑法試験問題

受験上の注意事項

- 1 監督者の指示がある前に、この問題を開くことを禁止します。
- 2 試験開始の合図により、解答を始めてください。この試験では、六法を貸与し、その使用を許可します。
- 3 試験開始の合図の後、印刷不鮮明等に気付いた場合は、黙って手を挙げ、監督者に申し出てください。
- 4 解答は、答案用紙に黒インクのペン又はボールペンにより書いてください。
消せるボールペンや時間の経過により字が消えるボールペンは使用しないでください。また、鉛筆は不可です。
- 5 試験時間は60分です。
試験開始後20分以内及び試験終了前5分間は、答案の提出及び試験室からの退出はできません。それ以外の時間に退出（途中退出）する場合には、黙って手を挙げ、自席で答案及び問題を監督者に渡してから退出してください。
- 6 この問題は、試験終了後、持ち帰ることができます。
- 7 次のもの以外は机の上に置かないでください。
受験票、筆記具、時計（計算機能等のないものに限る。）、眼鏡。
受験票は、氏名、受験番号が記載されている面を表にして、監督者が見やすい位置に置いてください。なお、上記以外のものについては、監督者の許可を得てください。
- 8 問題検討のためのラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題用紙に限り認めます。
- 9 携帯電話等は、必ず電源を切って鞆等にしまってください。
- 10 試験室内では、耳栓の使用はできません。
- 11 試験時間中の発病等やむを得ない場合には、黙って手を挙げ、監督者の指示に従ってください。
- 12 試験時間中の喫煙や飲食（ガム等を含む。）は、禁止します。
- 13 試験終了の合図とともに、直ちに筆記具を置き、監督者の指示を待ってください。
- 14 不正の手段によって試験を受け、又は受けようとした者に対しては、試験を停止し、合格の決定を取り消すことがあります。

〔刑 法〕

次の〔事例〕を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。

〔事例〕

甲は、真正な拳銃を入手しようと意図し、そのためには、警察官から拳銃を奪取することが最も適切な方法であると考えて、警ら中の警察官から殺してでも拳銃を奪うこととした。そこで、甲は、令和5年2月15日午後6時25分頃、A警察署前付近で、同署勤務の警視庁巡査であるVが制服に拳銃を装着して警ら中であるのを見つけたため、Vから拳銃を強取しようとし、B駅入口方向に向かうVの後を追いかけた。そして、甲は、同日午後6時35分頃、たまたま周囲に人影が見えない状態になったとみるや、携帯していた手製拳銃を手に構え、Vの背後に接近し、歩行しながらVの右肩部付近を狙って手製拳銃で弾丸を一発発射し、その弾丸をVの右側胸部を貫通させて、Vに右側胸部貫通銃創の傷害を負わせ、更に、たまたま約30メートル右前方を歩行中の銀行員Wの背部から上腹部右側をも貫通させ、Wに腹部貫通銃創の傷害を負わせた。甲は、倒れているVから拳銃を奪った後、そのまま逃走した。その後、V及びWは病院に搬送されて、一命をとりとめた。

〔設問〕

〔事例〕における甲の罪責について、具体的事実を摘示しつつ論じなさい（特別法違反の点を除く。）。

